



元気シニアは社会の力 その役立ち感と新しい働き方 ～かい援隊本部の取組みと見えてきた課題～

株式会社かい援隊本部
代表取締役会長 新川政信

平成25年3月13日（水）

目次

1. 解決すべき社会課題
2. 高・介併進策
かい援隊百万人構想とは
3. 沿革
4. 基本哲学
5. 取り組みの現状
6. 見えてきた課題



1-1. 解決すべき社会課題-①人手不足

2025年
介護分野の人手不足
140万人以上へ



1-2. 解決すべき社会課題-②介護離職

【実績と推移予測】 家族の介護・看護を理由に前職を辞めた人の数



総務省「就業構造基本調査」(平成19年度版)より



1-3.解決すべき社会課題-③活躍の場

60歳以上

2012年3,926万人

元気高齢者

84% = 3,297万人

元気高齢者が働きがい、生きがいを持って活躍できる場がない！



2-1. 高・介併進策かい援隊百万人構想

「介護分野の人手不足の解消」と 「高齢世代の働き場と 生きがいの確保」

二つを実現し、孫子の世代に様々な課題がのしかかる今、せめて介護の重苦しい負担だけでも取り除くことで、**孫・子の世代の未来を奪うことのない社会を実現**することをミッションとしています。



2-2. 元気シニアの働き方

**無理のないハーフワークで、週三日程度
社会の役に立ち、自身の健康のためにも、
“働く場”と“生き甲斐”を持って
介護事業所・施設でのお仕事**



2-3. 元気シニアの実績

- 隊員登録者 250名
- 3月稼働中 28名
男性10名、女性18名
- 月次累積稼働者 114名
男性53名、女性61名
- オーダー78事業者
小規模デイサービス等
(平成25年3月7日現在)



2-4. 元気シニアの出番

1. 人生経験・社会経験 = 年の功
2. 現役世代だけでは埋められない
シフトへの対応
3. 通常採用コストの約 6 割

知識・経験・技能・人縁

**そして有り余る時間と多少のお金
= 社会のチカラ**



2-5. かい援隊本部の強み

1. 元気シニア動員力
2. 共感資本集積型経営
3. メディア界の共感



3-1. 沿革

- 2009年4月1日 私設プロジェクト開始
- 2011年8月7日 ソーシャルビジネスグランプリ受賞
(高・介併進策 かい援隊百万人構想にて)
- 2011年11月17日 株式会社かい援隊本部 法人設立
- 2012年2月1日 一般労働者派遣免許取得
- 2012年4月1日 社会的企業として進発(開業)
- 2012年7月1日 職業紹介免許取得
- 2012年11月11日 名古屋支部開設
- 2013年3月 共感登録者600名、隊員登録者250名、
月次累積稼働者114名(男性53名、女性61名)
オーダー78事業者

(2013年3月7日現在)



3-2. 社会的課題にメディアの風

- 2013年2月15日 【NHK】首都圏ネットワーク「高齢者の労働力を活用」放送
2013年1月19日 【講演】早稲田大学 講演
2012年11月25日 【日経BP】 Asia Aging Summit2012 講演
2012年11月15日 【講演】社会起業大学 講演
2012年11月4日 【ラジオ日本】「タラジ」放送
2012年11月3日 【生涯現役推進協議会】生涯現役フォーラム 講演
2012年10月12日 【NHKラジオ】ラジオ深夜便
2012年9月26日 【日本経済新聞】 選ばれる介護へ「人材確保への知恵」
2012年9月23日 【韓国KBS】 「取材ファイル4 3 2 1」
2012年9月22日 【朝日新聞】 「先輩支える団塊世代」
2012年9月14日 【NHK Eテレ】 団塊スタイル「社会起業」
2012年9月1日 【月刊人材ビジネス9月号】 「支援者」としての人材ビジネス
かい援隊本部の「サポート部隊」派遣 後編
2012年8月16日 【日本経済新聞】 医療再建「人材確保の妙薬探る」
2012年8月16日 【東京新聞・中日新聞】 「介護担い手 高齢者も戦力」
2012年8月6日 【日本経済新聞】 シニアの起業「老高若低」
2012年7月1日 【月刊人材ビジネス8月号】 元気高齢者の活用で介護難民をなくす。
2012年6月22日 【経営情報レポート】 高齢者の問題は元気高齢者が解決！
2012年4月15日 【高齢者住宅新聞】 介護人材不足 解消へ
2012年4月10日 【言論プラットフォームアゴラ】 「若者には介護をさせない」
2012年4月10日 【シルバー新報】 介護の助っ人に元気シニア
2012年4月4日 【Yahoo! ニュース】 若者に介護はさせない
元気高齢者による高齢者支援「かい援隊本部」活動開始



4. 基本哲学

1. 元気シニアに
働く場と生き甲斐を提供
2. 社会の主役は、若者・現役世代
元気シニア世代は、社会の名脇役



5-1. 2012年4月進発披露式



5-2. 共感サポーター一集結



5-3. 会社説明会、セミナー風景



5-4. お仕事ご紹介



5-5. 講演・メディア出演



6. 見えてきた課題

1. 増々強まる人手不足感
(直近の受注から、総戦力が必須)
2. 元気シニアの受け入れ態勢今一歩
3. 働く場・ステージ不足を具体的にどう用意するか
4. 若者・現役世代の雇用を疎外しない働き方を謳うべき
(雇用の渋滞を起こしてはならない)



かい援隊本部の目指すもの

元気シニア世代が歩み寄り、若者・現役世代の無限の可能性を引き出せる「社会の仕組み」を構築すること

親が子を慈しみ
子が親を敬う



2025年

2025年8月7日

元気シニア100万人体制を実現！



最後に

84%の元気高齢者が社会を救う！

いつも社会の為に有難う御座います

